

1 教育目標

教育基本法の精神に基づき、「なごや学びのコンパス」で示された考え方を踏まえ、次のような教育目標を定めて、社会の著しい変化にたくましく対応しつつ、21世紀の国際社会に生きて働く人間形成を目指す。

【教育目標】 <ul style="list-style-type: none">・ 豊かな知性と情操を育む。・ 健やかな体と心を育む。・ 自分らしく生きる姿勢を育む。	【校訓】 <ul style="list-style-type: none">きまり正しく (規律)力いっぱい (勤勉)なかよく (協力)
---	--

(1) 育てたい子ども像

社会が多様化し、心のゆとりや豊かさが失われつつある中、学校教育での豊かな人間関係の育成の必要性が増している。子どもが人権を大切にし、課題の解決に向けてよりよい方法を考えて未来を切り拓く力を育むためには、自分を大切にするのと同じように他の人も大切にしようとする心と態度を身に付けるようにすることが大切だと考える。

また、充実した社会生活を営んでいくためには、すべての学習活動の基になる基礎的な学力を確実に身に付けるとともに、自ら進んで課題を解決したり、生活の向上を目指したりする力を培うことも大切だと考える。

そこで、次のような子ども像を設定し、一人一人のよさを伸ばすとともに、集団への所属感を高めることを柱にして、教育活動を行う。

<育てたい子ども像>

学び合い、認め合い、支え合い、
自他を大切にできる子

(2) 本年度の重点目標

「ナゴヤ学びのコンパス」を踏まえるとともに、本校の子どもや地域の実態を基に、重点目標を次のように設定する。

- ・ 人権尊重の精神を基盤とした学校づくり
- ・ 人権尊重の心の育成
- ・ 一人一人の児童が自分らしく学ぶ授業づくり
- ・ 互いに認め合う集団づくり

2 本年度学校教育の努力点とその推進計画

- (1) 主題 「あなたも わたしも みんな大切」
～違いを知り、認め合える学びを通して～

(2) 主題設定の理由

本校では、人権尊重の精神を基盤とした学校づくりを通して、児童の人権が尊重され、一人一人が大切にされていることを実感できる環境づくりに努めてきた。そうした環境のもと、児童の人権感覚を育むために、「人とのふれあい」と「参加体験型の学習」の二つを柱として学級活動や総合的な学習、道徳を中心に人権総合学習を行い、児童の実態を基に、人権総合学習カリキュラムを編成してきた。また、令和2年度からは、各教科の学習と人権総合学習を関連付けながら人権総合学習カリキュラムの深化を図っている。

しかし、昨年度の学校評価では、「自分に自信をもっていることが一つでもありますか。」という質問項目に対する回答の平均値が、児童、保護者ともに目標を下回っていた。こうした実態を踏まえ、本年度は、児童の主体性を大切にした集団づくりを積極的に行い、児童が関わり合いながら活動する機会を増やしていく。そうした教育活動を通して、一人一人の自己有用感を高めるとともに、互いの違いを知り、認め合いながら「あなたも わたしも みんな大切」が共感できる児童を育てていく。

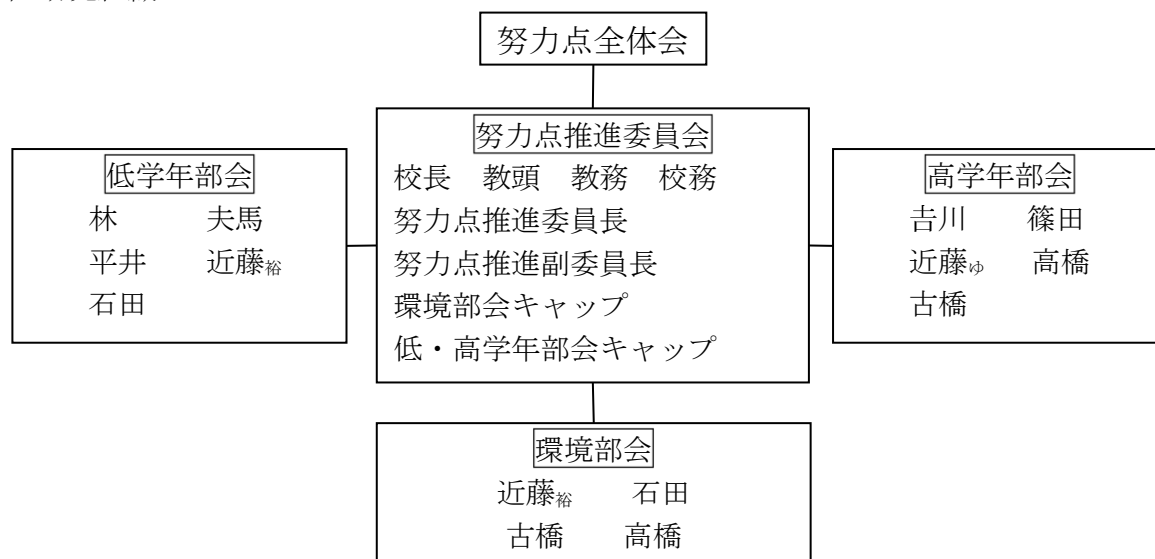
(3) 基本方針

全教職員による教育活動全体を通して、人権教育を推進する。そのため、教科等指導、生徒指導、学級経営などの活動の全体を通じて、人権尊重の精神を基盤とした学校運営を行う。

教職員による厳しさと温かさを兼ね備えた指導と、全教職員の意識的な学校運営への参画、児童の主体的な集団活動への参加等を促進し、人権が尊重される教育活動を実現、維持するための環境整備に努める。

本年度は、特に人権課題として「感染症」についての学びを通して、児童が違いに気付き、受け入れ、認め合い、「あなたも わたしも みんな大切」という主題を共感できるよう、学習活動を計画、実施、評価、改善する。

(4) 研究組織



(5) 研究の進め方

- 各教科の中から「感染症」に重点を置いて、個別の人権課題と結び付けることのできる学習内容を考え、児童の変容などから学習内容の有用性を検証し、人権総合学習につながる学習内容を見つけていく。
 - ・教育課程を基に、人権学習につながる学習内容を設定する。
 - ・学習のねらいを達成することができたかを児童の実態に応じてワークシートへの記述内容や活動の様子、児童の変容などから検証できるようにする。